

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援施設つくし園		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 14日		R8年 2月 4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	R8年 1月 14日		R8年 2月 4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	関係機関との連携体制があること	保育園や幼稚園等への交流保育の体験の機会を設けています。併行通園の利用児については、情報共有し、同じ視点で支援ができるようにしています。	引き続き、関係機関との定期的な連携会議を実施し、子どもの支援状況や課題について情報を共有します。
2	親子通園で我が子の特性を知って対応方法も一緒に考えていながら日々安心して子育て出来るよう支援している。単独通園は親子通園で基本的な親子関係を築いてから行っている。	母子通園クラスは、子どもの特性や発達状況に合わせて、タイプで利用の曜日を分けている。その日の目標も確認してもらっている。単独通園は個別対応しながらも、小集団の活動も経験できるようプログラムしている。	保護者や関係機関からの聞き取り、状況観察や評価等のアセスメントを確実にし、明確な目標や視点を持ち、支援方法の具体化をはかる。
3	保護者支援に力を入れている。	保護者向けの行事としてお母さん同士のおしゃべり会、お母さん達の勉強会を毎月行っている。	勉強会の内容にその時の保護者の状況や希望を踏まえて内容を検討していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職が常駐していない。	常勤の専門職がないため困ったときにすぐ相談が出来ない。	月1回のカンファレンスには専門職全員が参加して情報共有と具体的アドバイスをいただく。毎月の個別相談の時に具体的にその子の状態や支援方法のアドバイスをいただく。
2	保護者への面談が定期的ではない。	親子通園は毎回親も参加しているが、療育の実践の中で担任とゆっくり話をする機会が無い。	日常の療育の中で話をしやすい雰囲気作りと、定期的な面談なども計画していく。
3			